

## 令和7年度 第2回 市民参加推進・評価委員会 会議録

### 1 日時

令和8年2月19日（木）14時00分～15時00分

### 2 場所

宮代町役場2階204会議室

### 3 出席者

委員：福井委員長、齋藤委員（職務代理）、委員、菊地委員

事務局：加藤主幹、平向主査、池田主事

### 4 開会

事務局（加藤主幹）より開会及び事務連絡を行った。

- ・会議の成立について

会議の成立を確認した。

- ・会議資料について

次第、令和8年度市民参加計画（案）が揃っていることを確認した。

- ・会議録作成方法について

要点記録とし、発言者名を記載することを確認した。

### 5 あいさつ

福井委員長

### 6 令和8年度市民参加計画（案）について

事務局（池田主事）より、令和8年度市民参加計画（案）について資料を基に説明し、下記の通り意見をいただいた。

福井委員長：質問と意見を切り分けて進めたい。まず、委員会委員等の公募、審議会形式と実行委員会形式の説明について質問があればお願いしたい。

金子委員：公募人数について確認したい。全員入れ替わりなのか。また、公募に対する年齢や性別の制約はあるのか。町民まつりの実行委員は全員公募なのか。

加藤主幹：公募人数は毎回新規を想定しているが、継続される委員もいる。基本的には入れ替わりを想定し、ホームページで募集を行う。

加藤主幹：制約については、条例で男女比と掛け持ち数が定められている。既に3つの委員を務めている方が4つ目を申し込んだ場合、定員に達していれば遠慮いただく。競合した場合は調整する。年齢制限はない。

金子委員：年齢制限なし。性別は。

事務局：性別はバランスを考慮するが、応募が殺到した場合に調整する。要綱上存在するのは掛け持ち数のみ。男女比もあると思われる。

金子委員：男女比について、例えば3人の枠に男性3人が応募した場合はどうなるか。

加藤主幹：そのままとなる。

金子委員：町民まつり実行委員会が入っていないのはどういうことか。

加藤主幹：町民まつり実行委員会は町民が主体であり、町は事務局として関わっている。スポーツフェスティバルは町が企画し実行委員会として運営しているが、町民まつりは実行委員長が町民で世話人会という組織形態となっており、そこで切り分けている。

金子委員：主導者が違うということか。

加藤主幹：町民まつりには公募はない。町のイベントではあるが町民が主体であり、実行委員長が町民のため、行政として行う委員会ではない。

平向主査：主催について、成人式は宮代町が主催だが、町民まつりは町民まつり実行委員会が主催で町は共催という形になる。基本的に町主催の事業を市民参加計画に掲載している。

加藤主幹：二十歳のつどいは宮代町主催だが、町民まつりは財布が別で、町民まつり実行委員会が通帳を持ち管理している。町の予算ではなく、町は協賛金や補助金を出している。

菊地委員：男女比について、バランスを考慮して選べる場合はバランスよく、手挙げした人がいなければそのままということか。

加藤主幹：その通りである。

菊地委員：令和8年度4月以降、市民参加を促進するため、必要なものは増やし、不要なものはカットすべきと考える。市民参加させたいというのは条例上そうになっているのか。

加藤主幹：条例上、公募を設けることになっている。審議会は法改正や県からの要請により立ち上げるもので、町が独自で行うことは少ない。男女共同参画では10人のうち3人を公募するが、応募が満たされないこともある。実績は後日報告する。公募制度は条例上定められている。

菊地委員：昨年度と今年度と来年度は変わらないのか。新しい委員会が今年は来ていないということか。

加藤主幹：その通りである。定員も大体決まっている。

菊地委員：人数は条例で決まっている。条例に基づく審議会のため、変更するには条例改正が必要である。

福井委員長：それをここで議論するかは後の議論として、説明に対する質問ということで確認したい。変更の余地が少ないということか。

加藤主幹：その通りである。条例を変更する場合、新しい項目が入れば必要に応じて条例を変更する。委員会を創設する際は条例化し、議会の議決を経る。

菊地委員：つまり変わらない。計画自体は今まであるものの中から出てくるということか。

菊地委員：文化財保護委員会について、先日募集があったが、あれは補充ということか。

加藤主幹：任期途中であったため、補充である。

福井委員長：任期途中の募集であった。令和8年度は任期が2年で、大体の委員会が任期満了となるため、7年度と比べて募集項目が多い。8年度の方が数として多くなっているのは、任期終了の関係のみである。

齋藤委員：実行委員会形式の町民スポーツフェスティバルと二十歳のつどい実行委員会は定員が記載されていないが、最小人数などの基準はあるのか。

加藤主幹：定員の記載はないが、最小人数の基準はある。

金子委員：二十歳のつどい実行委員会について、基本は町内出身者にやってほしいという前提で伺う。地元出身ではない人がやった実績はどれくらいか。

平向主査：最近は町内の中学校ではなく私立に行く方も多いが、比較的町内3校の中学校の卒業生が出てきているのが多いというのが実情である。

齋藤委員：ボランティアの関係で、だいぶなくなっているものがある。ブドウの収穫などは、募集しないとということで終わるという単純な考え方でよいか。

加藤主幹：ブドウの収穫ボランティアはここ数年、公表計画には載せていたが、実際毎年実施がなく、おそらく不作などの影響があるため、担当が募集をやめたと思われる。辞める選択もあり得る。

福井委員長：今後の評価のため、参加者の構成比や応募率など評価しやすい指標をもう少し集めてほしい。現在は男女比だけだが、年齢別の統計を取る形で、最終的な選定がわかるようにしてほしい。そうすれば参加状況がわかり分析しやすい。審議会によっては昼間の会議で集まりづらいなど定性的な特性があるが、基礎的なデータがないと次の議論ができない。客観的な数字が必要である。

加藤主幹：令和8年度の評価の検証の取りまとめの際に、今出た数値も詳しく提示させていただきたい。

菊地委員：現在は3つ以上の掛け持ちをしている人は遠慮してもらっているのか。

加藤主幹：定員が満たされていればその通りである。

菊地委員：また、男女のバランスよくということを目指しているわけか。

加藤主幹：その通りである。実施している。

菊地委員：それが適当かどうかの議論をするために現状値が必要なので、それをいただきたい。この中で生活に直結するのは、公共交通会議や都市計画審議会、図書館などがあるが、全般的に応募数が少ないのではないか。定員いっぱいまで行って事務局で選ぶということまではしていない。そういう重要なものについては、なるべく努力してみ

んなに伝わるように、どういう会議を実際やっているのか、会議の性質も広報を見るとわかるが。現在、応募者が少ないのではないかという点について、事務局として感触的にはどうか。

平向主査：実績ベースでは全般的に定員ギリギリの人数までしか集まらないなど、思っているより応募は来ていないというのが実情である。

菊地委員：例えば、いろいろなデータを基にすると、どの年代が必要か見えてくる。そうすると、その年代に呼びかけ、違う告知の仕方をすればよい。また、告知の仕方も項目によって変わってくるため、無駄な動きが減る。

押田委員：同意見である。

福井委員長：計画案は案を取り、文言を整理し修正していただき、案を取るということではよろしいか。

福井委員長：今日の議論としては以上となります。

## 7 その他

- ・令和8年度市民参加計画は、3月広報および町ホームページへの掲載予定。

以上